

はじめに

「特殊教育」から「特別支援教育」への転換が図られる中、長野県では平成16年度に県内全小学校及び全自律学校において、平成17年度に全中学校において^{エスレック}SREC（自律教育コーディネーター）が指名され、校内委員会が設置されました。さらに、各校の実践を支援するために、県教育委員会では、SREC養成研修（年5回）、サポート会議（県下4地区年2回）、教育事務所・総合教育センター・自律学校による自律教育相談等を実施してきています。

校内支援体制の課題

これまで、自律教育シリーズ第1集（平成16年1月発行）では、校内支援体制づくりに向けたガイドラインを、第2集（平成17年1月発行）では、具体的な支援の方法を示してきました。各校では、これらを参考にしながら、SRECを中心に特別な教育的支援を要する児童生徒を支援していただいていると思います。

SRECが動き始めた平成16年8月に、支援を進める上で課題となっていることについて調査を行いました。課題として多かったのは、①校内支援体制をつくるのがむずかしい、②SRECは校務が重複していて大変、③忙しくて会議等が開けない、ということでした。他に、自律教育にかかわる専門性、保護者との関係、人員の不足、教師の意識改革等が挙げられました。

課題を乗り越えるために

特に、SRECを中心とした校内支援体制づくりに苦慮している学校が多いようです。しかし、特別な教育的支援が必要な児童生徒への支援は、SRECの指名によってスタートしたわけではありません。これまでも何らかの形で支援体制を組み、支援を行ってきているはずで、そうした学校ごとに積み上げてきた実践を重ね合わせて、学校サイズの体制づくりを行うことが大切です。

しかし、担当する教師が一人で抱え込んでしまうケースもまだまだ少なくないようです。今日では「チーム支援」が有効だと言われ、多くの学校で実践が進められてきています。第3集においては、「チーム」をこれからの校内支援体制のキーワードとしました。

第3集のポイント

第3集は、これまでの県下の実践を検討し、事例集としてまとめました。SRECが支援を進める上で課題とした内容を中心にテーマを取り上げてあります。教師が知恵を出し合い、まさしく「みんなで支援 みんなが笑顔」を目標に取り組んできた事例です。是非、ご利用ください。

平成18年1月

長野県教育委員会